

# Lectio Divina で味わう主日の福音・C年 巻頭言

カトリック東京大司教 岡田武夫

2009年の待降節より典礼暦はC年に入り、主日の福音はルカによる福音となります。

わたしたちキリスト者の毎日はイエス・キリストのことばを聞き、キリストに従って生きる日々であります。日曜日は主の日であり、その日に読まれる福音がその週のわたしたちの生き方の指針となります。福音の朗読は一年間にわたり、主イエス・キリストの生涯をわたしたちに語りかけます。

主日には福音以外に二つの聖書朗読が行われます。それぞれその主日の福音の意味をより明らかにするために有益な箇所が選ばれています。通常、第1朗読は旧約聖書から取られ、第2朗読は福音書以外の新約聖書から選ばれています。新約聖書は旧約聖書から生まれました。イエス・キリストの言葉と生涯をよりよく味わうためには旧約聖書の学びが大切です。新約聖書は新しい契約の書ですが、新しい契約の意味を知るためには旧約すなわち古い契約の成立とその次第を知る必要があります。(第2バチカン公会議『神の啓示に関する教義憲章』14-16項参照)

また使徒たちがイエス・キリストの出来事をどのように受け止め、どのように生きたかを知るためには、使徒言行録や使徒パウロの手紙を学ばなければなりません。

主日の福音は二つの聖書朗読と合わせて学び味わうようお勧めします。

なお、さらにこの機会に、聖書朗読について日頃感じていることを申し上げます。

聖書は本来朗読され、会衆はみことばに耳を傾け、心で受け取るべきものです。深く読むことは大切ですが、傾聴することも大切です。司式者として礼拝やミサのときに朗読を聴きますが、よい朗読が欲しいと思います。よい朗読のためにはよい準備が必要です。そのために学習も必要でしょう。

また聖書のみことばは聖書全体の中で受け取る必要があります。そのため、聖書全体を通読することが勧められます。すでに種々の聖書通読のプログラムがあります。できたらグループで一緒に通読に挑戦するよう勧めます。